

**現** 在の日本では、男性の3割が育休を取得したいと思っているのに、実際取得できている人は2パーセントにも満たない現実があります。市役所も同様で、最近少しずつ増えているとはいえ、まだまだ珍しい男性の取得。そんな育休を取得した男性職員3人に市長を交え、「男の育児」についての経験を語り合う座談会を行いました。そのときの様子を少しのぞいてみましょう。

日時 9月28日(火) 13:30~15:00

場所 市長室

聞き手 緒方 康裕(市男女共同参画推進室) 2男1女の父

# IKU MEN

**(聞き手)** まずは市長にお聞きします。妻の入院を機に仕事と家事との両立に奮闘されたそうですが、その時のエピソードなど教えてください。(市長) 学校を卒業してからの仕事と、働くことが男の仕事と思い込んで、結婚してから家のことには妻に任せっきりでした。夜は十時前に家に帰った記憶はないくらいで、日付が変わることもよくありました。朝は六時ぐらいに起きて、七時半には事務所にいるといった生活をずっと続けていました。

**(市長)** 晩ご飯もあつたので、時間があるときはできるだけ夕方五時に帰るようにしていました。最初は買い物に行っても何を买买つていいのかわからず、困った記憶があります。一週間子どもの弁当を作ったら、妻の苦労がよく分かりました。(来仙) 晩ご飯も作っていたのですか？(市長) 子どもと三人で交代制にしていますが、だいたい週二日は私が作っていました。まあ、今は逆に次女から食べさせてもらっています。(聞き手) 育児中の食事について、皆さんはどのようにしていましたか？(緒方) 自分が作っていました。子どもが小さいので、そこまで手の込んだことはしなかったです。(来仙) 毎日弁当を作るとなると、メニューを考えるだけでも大変ですよ。(市長) 夢にまで見ました。「何、お父さん。このお弁当は」って怒られる姿を。(来仙) 誰かに頼もうとは思わなかったのですか？(市長) 私がずっと思っていたのは、女性にできることだから男性にできないことではない、その逆も言えることです。

が、やろうと思えばできるんだということ。それから、やっぱり一つの時代を感じます。以前は、自分が台所に立っているということは友達にも言えなかったし、弁当を作っていると話したもので、「何をしているんだ。家政婦を雇えばいいじゃないか」といった話になっしまいました。だから、友達にも話せないし、ちやうど県議会の要職がまわってきたこともあり、その時はきつかったです。私の場合はまだ家庭のことを男性がやるという意識があまりない時代でしたから、私自身が少し追い込まれた形になってしまいました。今は男性も家庭のことをやるという意識がだんだん根付いてきているので、それぞれ仕事を持ちながら、ある程度自分の意思でやろうということができる時代になったので、自分の体験からとても良いことだと感じています。

**(聞き手)** 育児中は担当していた仕事のことなど分らないことや困ったことなど職場から連絡があったり、対応したりしたことはありましたか？(緒方) 当時、市民課で戸籍を担当していましたが、ほかの職員からサポートしてもらえたので助かりました。(川原) 異動してそんなに日が経っていませんでしたが、業務を引き継ぐ職員には簡単なマニュアルを作った渡し、分からないことがあったら、いつでも電話していいように伝えていました。周囲に負担をかけてしまいましたが、皆さんが業務に精通していたので、とても心強かったです。(来仙) 異動してすぐだったので、それまでの派遣先で担当していた仕事を後任に引き継ぎはしていましたが、最初はいろいろとあって、電話で打ち合わせを度々していました。

育てる男が、家族を変える。社会が動く。



# イクメンたち

～育児休業を取得して～

以前と比べて、男性の子育ては変わってきているのでしょうか。最近、「イクメン」という言葉を耳にすることが増えてきたと思います。子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のことを「イクメン」といいますが、今回その代表的な存在である育児休業(以後、「育休」という。)を取得した市役所職員にスポットを当ててみました。



川原 律之 [高齢者サービス課]

平成21年12月に3週間、育休取得。妻が専業主婦の場合は取得できないと思っていたが、妻の産後8週間以内であれば夫も取得が可能だということを知り、2人目の子どもが生まれた際、里帰りをせずに自宅で育児をする妻をサポートするため取得した。

小山 達生 [福津市長]

平成20年12月まで福岡県議会議員を7期(26年間)務めた後、平成21年3月から現職に就任。平成5年に妻が病気で入院を繰り返すようになって(3年後他界)、県議会議員の仕事と家事の両立をしながら、2人の娘(当時、中学生と高校生)を育てた。



緒方 紀一郎 [こども課]

平成20年10月から半年間、子どもが1歳半になってから育休を取得。結婚当初から、せつかくある制度を活用して育児を経験したいと思っていた。



来仙 義久 [建設課]

平成21年4月に2週間、2人目の子どもが1歳になってから育休取得。それまで派遣されていたところから、市役所に戻ってきたタイミングだった。





**（聞き手）**育休を取得したことで、仕事にプラスになったことはありますか？

**（緒方）**子どものことがあって残業できない状況がでてくるので、今まで以上に時間内に集中して仕事を終わらせようという意識は高くなりました。

**（川原）**確かに効率的な動きをとるようになりました。私は家事育児のほとんどをやっていました。突然子どもが泣き出すなど予測外のことが起きるので、いかに効率よく動くかが重要でした。そうしないと自分の睡眠時間が削られてしまうからです。そのことは、仕事において、トラブルが起った際の気構えには役立っています。それから、私は常々、仕事と直結する知識とか技術だけでなく、一見仕事と関係のないことの経験値が多い人ほど仕事のスキルが高くなるのではないかと考えています。はつきりどことは言いにくいですが、自分なりに仕事を進める上で変化が出ているとは思います。

**（来仙）**働き始めて二週間も休んだことはそれまでなかったのですが、四日目ぐらいから

**（聞き手）**いろいろと話が出ましたが、育児を経験したことってこんな設備があったらいいとか、必要だなと感じたことがあればお願いします。

**（緒方）**福岡市に住んでいますが、ベビーカーを押して歩道を歩いていたら、段差があるとそこは大変で、何とかしないといけないと感じました。これは、車椅子の人もそうだと思います。

**（川原）**妻が専業主婦でも産後八週の間、法改正により現在はそれ以降も取得可能なら育休が取得できるということも、母子手帳を見て知ることがなかったら取っていません。そう思うので、もっとそういった情報を知りたいです。

**（来仙）**私は検診に何度か連れて行きましたが、ほぼ百パーセント母親でした。とても落ち着かなかったですね。

**（市長）**パパ手帳なんかあればいいかもしれないですね。予防接種や検診の情報もあれば、連れていく父親も増えるのではないのかなと思います。

**（聞き手）**最後に市長から、

社会からすぐ遠ざかっていくような感覚になり、一週間も経つと子どもと二人で世捨て人感覚に、最後の方になると仕事があるってことは素晴らしいんだなという思いが湧いてきました。そういう意味で仕事に対する気持ちも、でもプラスになりました。

**（聞き手）**母親が日中ずっと子どもと一対一で、世間から孤立した感覚になって、ストレスがたまってしまうという話を聞きますが、そんな感覚ですか？

**（来仙）**核家族化や幼児虐待の問題など、それまで何気なく見ていましたが、同じような経験をすると、ある程度想像できるように感じました。そういった面でも、勉強になりました。

**（市長）**育休に限らず、仕事を休んで家庭のことをずっとしている時は他の人がバリバリ仕事をしているように見えるんですね。実際は自分が思っているほどではないのに、何だか自分を取り残されていくような感覚になってしまっている気持ちはよく分かります。

**（聞き手）**育休を取得したことに対して、妻からの感想は何かありましたか？

**（市長）**産後の妻の精神的な不安や孤独感の解消のためにも必要です。長い目で見た夫婦のあり方を含めて、育休を取得する男性が増えることは重要だと思います。そういったことが、女性も安心して子どもを産もうという気になるのではないのかな。お金では表せない価値があると思います。

**（聞き手）**職員の皆さんから、これから取得しようか迷っている男性に向けて、ひと言メッセージをお願いします。

**（緒方）**育休を取ることで得られる子どもとの触れ合いも素晴らしいし、自分自身のことを見つめ直す時間にもなり得るので、ぜひ取得してほしいです。

**（川原）**特に出産直後の母親は外出も制限されるし、ホルモンバランスの変化で精神的に不安定になっています。育休は子育てと妻のサポートという二つの面があると思います。赤ちゃんの時期はその時だけで、その機会を逃すと後でしようと思ってもできないし、何事にも変えられない喜びを得ることができない。

**（緒方）**一通り家事ができるようになったことと、育休前と比べて子どもとの距離が縮まったことで、安心して子どもを私に任せられるようになったことを喜んでくれています。

**（川原）**私に内緒でこっそりプレゼントを用意してくれました。中を開けると、お花と「お疲れさまでした」と書かれたメッセージカードが入っていました。

**（来仙）**私の場合、日ごろから掃除洗濯などは私がして、食事の関係は妻がしているのですが、育休中もさほど変わらなかつたのですが、恐らく女性側の気持ちとして男性にも経験してほしいということがあったのかなと思います。

**（市長）**育休を取得したということ自体、妻は喜んでいてと思いますよ。育児という同じ体験を通して、話を分かってもらえる、聞いてくれる最も身近な大人が夫としているのですから。

**（来仙）**確かに、一人目の育休の時に、私が帰宅すると妻がよく話し掛けてくるので、なぜだろうと思っていました。自分が経験してみたら、「あ、話したかったんだ」ということがよく分かりました（同うなずく）。

**（聞き手）**育休中に体験したことって困ったことや面白かったことなどがあれば教えてください。

**（緒方）**育休に入ってから二日目に、初めて子どもが四十度の熱を出してしまい、とても慌てたことがあります。

**（来仙）**その時どうしました？

**（緒方）**まずは妻に電話して、それから病院に連れて行きました。多分、私に対する子どもの拒否反応が出たのでしよう。一日目もパパと二人きりで、二日目もそうなのって感じでした。

**（市長）**母親と扱い方が違うから、子どもも慣れるのに時間がかかるのでしよう。抱き方一つ違うからね。

**（川原）**確かに、私も泣き止まない子どもを妻に渡したら、すぐに泣き止んだということがありました。

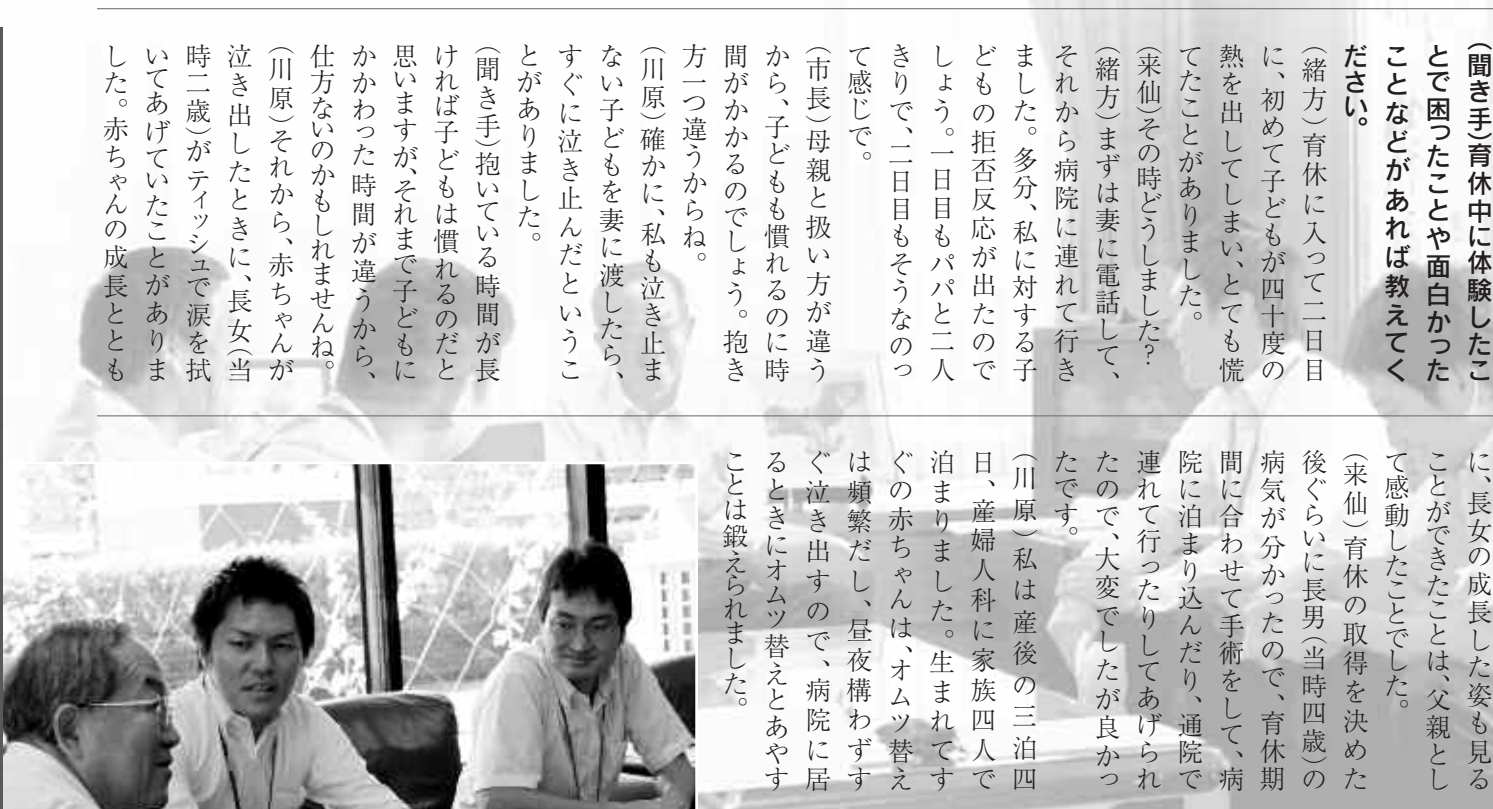
**（聞き手）**抱いている時間が長ければ子どもは慣れるのだと思います。妻が、それまで子どもにかかわった時間が違うから、仕方ないのかもしれないですね。

**（川原）**それから、赤ちゃんが泣き出したときに、長女（当時二歳）がティッシュで涙を拭いてあげていたことがありました。赤ちゃんの成長とともに、迷っているのであれば、ぜひ取得した方がいいと思います。

**（来仙）**それまで見えなかつたことが見えるようになったし、物事をいろいろな角度から見るといったことを考えると学ぶことが多かつたと思います。二週間でも十分胸がいつぱいになる経験ができたので、短い期間でも取得できればいいと思います。

**（聞き手）**ありがとうございます。

今回は、市役所で働く男性職員の体験から、その様子を少しのぞいてみました。次は、民間企業などで働いている男性について、その実態に迫ってみたいと思います。市内に住んでいる人や勤務している人で育休を取得したような男性をご存知であれば、ぜひ市男女共同参画推進室までお知らせください。情報をお待ちしています！



に、長女の成長した姿も見ることができたことは、父親として感動したことでした。

**（来仙）**育休の取得を決めた後、長男（当時四歳）の病気が分かったため、育休期間に合わせて手術をして、病院に泊まり込んだり、通院で連れて行ったりしてあげられたので、大変でしたが良かったです。

**（川原）**私は産後の三泊四日、産婦人科に家族四人で泊まりました。生まれてすぐの赤ちゃんは、オムツ替えは頻繁だし、昼夜構わずぐ泣き出すので、病院に居るときはオムツ替えとあやすことは鍛えられました。

**（聞き手）**抱いている時間が長ければ子どもは慣れるのだと思います。妻が、それまで子どもにかかわった時間が違うから、仕方ないのかもしれないですね。

**（川原）**それから、赤ちゃんが泣き出したときに、長女（当時二歳）がティッシュで涙を拭いてあげていたことがありました。赤ちゃんの成長とともに、迷っているのであれば、ぜひ取得した方がいいと思います。

**（来仙）**それまで見えなかつたことが見えるようになったし、物事をいろいろな角度から見るといったことを考えると学ぶことが多かつたと思います。二週間でも十分胸がいつぱいになる経験ができたので、短い期間でも取得できればいいと思います。

**育児・介護休業法の改正**

平成21年7月に公布された改正法(施行日は一部の規定を除き、原則として平成22年6月30日)により、男性の育児休業が取りやすくなりました。

**夫婦で取得すると、1歳2か月まで休業できます**

父母ともに育児休業を取得する場合、子が1歳2か月(今までは原則として1歳)に達するまでの間に、1年間育児休業を取得することができます(パパ・ママ育休プラス)。

**妻の産休中に取得すると、夫は2度目も取得できます**

配偶者の出産後8週間以内に、父親が育児休業を取得した場合、再度取得することができます(今までは原則として1回限り)。

**配偶者が専業主婦(夫)でも休業できます**

労使協定により配偶者が専業主婦(夫)であれば育児休業の取得ができないようにすることができる制度が廃止されました。

詳しい男性の育児休業に関する情報は、厚生労働省イクメンプロジェクトのサイト (<http://www.ikumen-project.jp/index.html>) などをご参照ください。

**「あすばるフォーラム」に  
小山市長が講師で登場!**

福岡県男女共同参画センター「あすばる」において、11月27日・28日の2日間、「あすばる男女共同参画フォーラム2010」が開催されます。そのテーマ企画の中で、小山市長が講師・パネラーとして、市の取り組みや体験談を話しますので、どうぞご期待ください。

《市長登場企画》  
日時 11月28日(日)13:30~15:30  
場所 福岡県男女共同参画センター「あすばる」  
(クローバープラザ内)セミナールームA B  
テーマ 男たちの男女共同参画~子育て、介護は当たり前~

※2日間とも、マイクバスを利用して会場へ行くことができます(11月17日までに要予約)。詳しくは、市男女共同参画推進室(☎43・8116)まで問い合わせください。  
【定員】40人(先着順)  
【集合・解散場所】市役所福岡庁舎玄関前  
【集合時間】8:50  
【解散予定時間】16:30(27日は16:00)



# 優秀作品

市内の各小学校・中学校・高校から応募された「男女がともに歩むまちづくり」への思いや夢などを「一行詩」として表現した作品の中から、今年度は以下の19作品が優秀作品として選ばれました。どの作品も、日ごろから身の回りで感じていることなど、さまざまな思いが詰まった作品です。

思わずほほ笑んだり、「うんうん」とうなずいたり、「あっ!」と気付かされたり、「ドキッ」としたり。皆さんは、これらの作品から何を感じましたか?

## 【小学生の部】

- ・女らしく、男らしくは、ない 見守ろうその人の特徴を
- ・「男はいいけど女はちょっと…」 そんなの差別 みんないっしょが一番いい
- ・男・女関係ない! 自分にできることはやってみる!
- ・ネクタイも エプロンも 似合う お父さん
- ・お母さんとお父さん いっしょにたたんだよ。せんたくもの。
- ・お父さんだってエプロンつける。ほくだってエプロンつける。
- ・男らしさ、女らしさ、自分できめつけ?思いこみ?

## 【中学生の部】

- ・ひろめよう 男女の輪 深めよう 男女の絆
- ・男ですか? 女ですか? それともあなたですか?
- ・父さんが フライパンを扱う姿も かっこいい。
- ・野球・サッカー 男子の遊び 私は好きだよ だって楽しいもん。
- ・男が料理 女が仕事 どうして違和感わくのかな
- ・お父さん たまには家事をしてみなよ

## 【高校生の部】

- ・ふと見ると 色あせている 父のエプロン
- ・男だけ 女だけの 仕事はない
- ・男という歯車、女という歯車、二つかみあい世界が動く
- ・父と母 2人でつくった 手料理大好き
- ・仕事帰りの母をやさしくむかえる 父のやさしさ
- ・男女とも 見える世界は いっしょなんだ

- 青木 大智さん(勝浦小学校5年)
- 磯野 裕花さん(上西郷小学校6年)
- 竹村 翔世さん(神興小学校4年)
- 浜崎 高也さん(神興東小学校6年)
- 米倉 七海さん(津屋崎小学校4年)
- 船越 雄貴さん(福間小学校5年)
- 坂之下 莉音乃さん(福間南小学校5年)

- 中川 智史さん(津屋崎中学校3年)
- 豆田 優平さん(津屋崎中学校3年)
- 池浦 太星さん(福間中学校2年)
- 森 美月さん(福間中学校2年)
- 赤間 勇心さん(福間東中学校3年)
- 田中 知佳さん(福間東中学校3年)

- 倉田 亜実さん(光陵高校2年)
- 市川 小夜さん(光陵高校3年)
- 城内 響さん(光陵高校3年)
- 板谷 洋介さん(水産高校1年)
- 園田 耀久さん(水産高校1年)
- 花田 糸帆さん(水産高校1年)



相互扶助の精神に基づき、高齢者や産後の女性など、配食を必要とする

市では「福津市男女がともに歩むまちづくり基本条例」に基づいて、家庭、地域、職場、学校などで「男女がともに歩むまちづくり」を積極的に進めている住民や団体、事業者などを「推進モデル」として推奨しています。今年度は、次の三団体を「推進モデル」に決定しました。

◆特定非営利活動法人 福間食事サービスころっけ(会員数 四十人)



相互扶助の精神に基づき、高齢者や産後の女性など、配食を必要とする

◆南小学校支援活動(きらきさんグループ)(会員数 四十人)

平成八年、女性が主となって立ち上げた事業も、新規会員が増え、配達ボランティアに男性を巻き込むなど、現在では、男女スタッフが力を合わせて取り組んでいます。また、平成十一年にはNPO法人を取得し、市の配食サービスを受託しています。現在は、週六日、一日百七十食の配達をするまでになり、地域福祉に大きく寄与しています。



相互扶助の精神に基づき、高齢者や産後の女性など、配食を必要とする

◆つやざきハマボウの会(会員数 七十人)

「地域の子どものためにも何かしたい」と集った地域の男女が、お互いの特技や知識などを生かしながら、協力して活動を続けているグループです。平成十四年から、福間南小学校の要望に応じて、地域の先生として総合学習・クラブ活動など、熱心に子どもたちと触れ合い、指導しています。また、登下校の見守りやあいさつも行なうなど、子どもたちから「きらきさん」と呼ばれ慕われています。

「男女共同参画宣言都市・ふくつ」として、毎年行っている取り組みの一として、今年度選ばれました「男女がともに歩むまちづくり推進モデル」と「男女がともに歩む」一行詩の優秀作品について、紹介します。

「地域の子どもたちのために何かしたい」と集った地域の男女が、お互いの特技や知識などを生かしながら、協力して活動を続けているグループです。平成十四年から、福間南小学校の要望に応じて、地域の先生として総合学習・クラブ活動など、熱心に子どもたちと触れ合い、指導しています。また、登下校の見守りやあいさつも行なうなど、子どもたちから「きらきさん」と呼ばれ慕われています。

が決定しました!

男女がともに歩むまちづくり推進モデル  
男女がともに歩む「一行詩」優秀作品

## 表彰・推奨式は12月11日です

「男女がともに歩む」一行詩の優秀作品の表彰式および「男女がともに歩むまちづくり推進モデル」の推奨式を、市主催の人権講演会で行います。ぜひ、ご参加ください。

### スケジュール

- 13:00~13:30 表彰・推奨式
- 13:30~15:00 人権講演会
- 講師 畑正憲さん(作家)
- 演題 「命に恋して」

会場  
市中央公民館

津屋崎を愛する人々たちにより、郷土の自然文化を大切に、住民や来訪者に喜んでもらえる町づくりを目指して、平成十二年に誕生しました。ハマボウのように自然と共生共育し、優しい人づくり町づくりに静かな活動をしています。男女で協力して運営し、春は野草を食べる会、毎年の先進地視察、毎月行うハマボウ並木の手入れなどを通して地域住民との融和を図り、心を合わせて地域の発展に努力しています。

男女共同参画に関する住民意識調査を実施します

市では、男女がともに歩むまちづくりに向けた住民意識調査を定期的(五年に一回)に実施しています。

今回の調査は、市民の意識や実態を把握し、男女共同参画施策を推進する上での重要な基礎資料として活用しますので、ご協力をお願いします。なお、調査は無記名で統計的に処理しますので、個人が特定されるなど、回答されたかたにご迷惑をお掛けすることはありません。また、調査結果は、広報誌や市公式ホームページでお知らせします。

調査対象 市内在住の二十歳以上の男女二千人  
抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出  
調査期間 十一月十五日(月)~十一月二十九日(月)  
調査方法 郵送による配布および回収

問い合わせ  
市男女共同参画推進室(福間庁舎)  
☎43・8116